

ひとはつうしん

(字:水田洋七)



社会福祉法人 ひとは福社会

〒739-1203

広島県安芸高田市向原町長田1857番地

TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムパ・ジアド・L) http://hitoha-fukushi.com (マルアド・L) honbu@hitoha-fukushi.com

4月末、共同ホームひとは・ひとは作業所で新型コロナウイルスの陽性者が確認されて以降クラスターが発生しました。この場をお借りして多くの方にご心配・ご迷惑をおかけしましたことをバよりお詫び申し上げます。また生活部門の支援に関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。

今年20年を迎える入所施設「共同ホームひとは」。この間多くの方が生活の場として過ごし、みんな嬉しく合うこと、些細な喧嘩、出会い、別れといった数々の出来事が繰り返されてきました。当然同じ日は一度もなく月日は流れ、当初から入所していたきららも歳を重ね、その一人に入所した時のことを聞くと「若かった」と笑いながら話していました。

その彼が「ここはわしの部屋で。なんでここで寝れんのんせ。」と発したのは、コロナの罹患が確認され、隔離静養室に移動をお願いした時のことでした。これまで「部屋を移動してほしい」と夜起こされたことはなかったでしょう。再度事情を説明し、その後は快諾。回復の兆しが見えた頃、静養室から高らかに笑う声が聞こえてきました。

共同ホームの設立20年の歳月、そして今回のクラスターと、ホームだけではありませんが、常に多くの方に尽力いただき、ここに住むきららのたくさんの努力とともに、「家もいいけど、ホームもいい」といえる生活の場となりました。これからも自分の生活スタイルが築けるよう、個々の意志を大切に歩み続けていきます。

(共同ホームひとは・ひとは作業所 井上美恵)

「夢に向かってコツコツと」

(絵:小野健一)

ひとはを利用している人と多くの方々との交流の場「ひとはガーデン」が完成しました。10年前から色々な植物を挿し木して増やし、5年前からはみんなで瓦を割り続け、ガーデン全体に瓦チップを敷き詰めました。ログハウスを建て、中にはひとはの



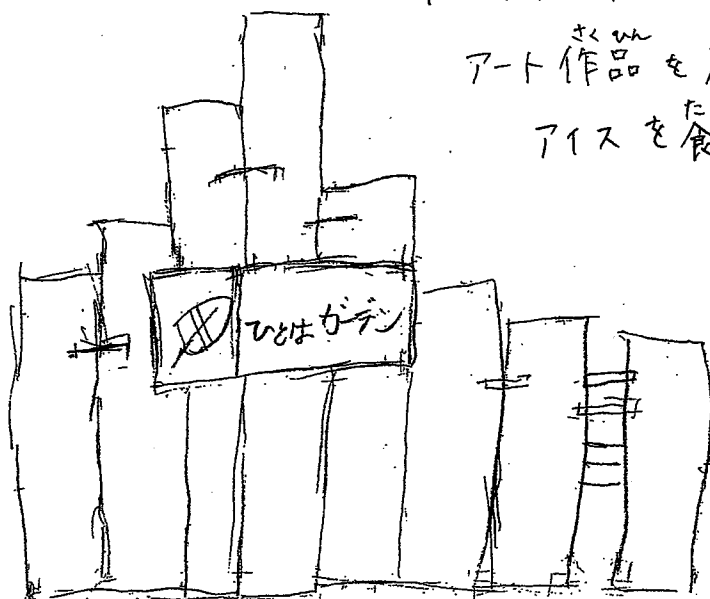
アート作品を展示しています。ブルーベリー狩りやアイスを食べながら散策を楽しんでください。

オープンは6月25日です。

先着30名様はブルーベリー1パック無料でお待ちしています。

(ひとは工房 丸岡洋二)

(絵:鐘原和典)



スワップ

名前 中村遥香
所属 就労センターあぷ

生まれ変わるなら何?

やっぱりレッサーパンダです。
一番好きなので!
人間と迷いました(笑)

名前 渡里一真
所属 ひとは作業所

生まれ変わるなら何?

何度生まれ変わっても今の自分。
(猫もいいな〜)

あたらしい仲間が
ふえました

「あるがまま」

ひ

1日のほとんど外に立っているか、自室にこもっている築地さん。
 昼休憩、彼は庭の隅で踊ったりはねたりしている。私はきらりと下の道を散歩する。すれ違う瞬間、私は唯一踊れる盆踊りを踊ってみせる。すると彼も同じ所作を返してくれる。すかさず「築地さん、今日もカッコイイ」と声をかけることにしている。築地さんがにっこりと笑う。私の想像をはるかに超える生きづらさの中で生きてきた彼にとって、できる支援などたかが知れている。今日もこれでいいのだと自分を納得させてみる。

(ひとは工房 奥戸文子)

「クッキーと手紙」

は

3月までひあ・くらぶを利用していたこうかくん。以前はちょっとしたことでもドキドキしてしまい、それをうまく表現できず少し行動が荒くなってしまうところがありました。彼の好きなこと(ミニカーで遊ぶことなど)を通して言葉を増やし、少しずつ自信がつくことで、気持ちを言葉で伝えられるように。ひあ・くらぶ最終日、お母さんと家で作ったクッキーに名前を書いた手紙をもらい、涙が出るほど嬉しかったです。4月からくらむぼんへ行っています。

(ひあ・くらぶ 光川美希)

「たかが10分、されど10分」

日

ひとは寮での昼食準備。金羽木さんは準備のため、皆さんより少し早く食堂へ。ご飯をつぎながら話すのは、今日の献立、季節、コロナ、体調、家族、趣味。色々なこと。毎日10分のひととき。1年前は「あれ？食器の数間違えたかも」「大丈夫？私が別のを使ってもいいよ」「ありがと。何とかなりました！」という会話がある日は「今日は通勤務なんです」「子どもの迎えとか家のこととか、大丈夫？」と気づかいの言葉。天気の良い日は「仕事休んで、どこか行きたいねー。」と2人で外をながめる。何気ない、いつもの10分がある幸せ。(食事部 中村京子)

語り継ぎたいこと

おーい 聴こえますか 改訂版

わんが
 おらんら
 ひはが
 つぶれる
 けんろう。

いつも寡黙な重廣さんですが、送りの車の中でもあまり元気がありませんでした。みんな降りて一人になったのを見計らったように、「僕は頭がいたいけん、明日休もうてえ。」と相談するでもなく語りかけてきました。さも驚いたように、「そうか、困ったのう。明日は重廣さんがおらんのか。どうしようかのう。」と思案気につぶやきました。しばらく沈黙の時間が通った後、重廣さんは「やっぱり明日も行くのう。ワシがおらんかったら、ひとはがつぶれるけんろう。」と言いました。
 「驚くやら、うれしいやら、重廣さんがひとはにおいて、自分をそんなに大切に思ってくれているとは…。重廣さんだけでなく、仲間たち全員が「わしがおらんかったら、ひとはがつぶれるけんろう。」という思いになつてくれるひとはこそ、ひとはの目指すものなんですね。

編集後記

クラスター発生時、3週間の臨時休所となり、通いでひとはを利用する子どもは自宅での生活を余儀なくされた。その間、農園スタッフや専任の順子さんが一人暮らしの重廣さんの宅を訪問されたそう。訪ねた岡山崎村さんが「毎日の整理もしています。」と重廣さんに話すと、「言、こくわいせあ、わしがするのじー。」と。王様の日に「去年の今頃はくらむぼんを摘み上げた」と日記に書いていたそう。と会話されたよう。休所である、ひとは(2)思いを馬せせといふことばかりかかえら。

(竹内宏美)